

# the people

元気なまちには 元気な主張を続け  
元気に行動する 市民がいる

## コロナ禍の中 新年度スタート

2021年度がスタートしました。しかし、麗らかな陽気とは裏腹にコロナ禍の影は変異種の出現を含めてまだまだ色濃く残り、新しい生活のスタイルを守りながらの手探りの日々が続いています。ザ・ピープルとしても、様々な困難を抱えながらの新年度スタートとなりました。

一つには、一昨年度古着リサイクル事業の中で大きなウエイトを占めていた「エコウールリサイクル事業」の連携先、岩手県一関市のF社工場火災に端を発した、古着の出先クローズがあります。これは、コロナ禍の中での一時的な自動車産業全体の低迷とも重なり、本会から自動車内装材の原料として流れていた主に着用不能な冬物衣料の流れを完全にストップさせました。そして、回収した古着のうち対象品の全量を焼却処分しなければならないという局面にまで陥りました。様々な手法を探し、ラオスの山岳地帯にすむ少数民族に支援物資として送り出すことが出来たのが、昨年度の12月のことでした。しかし、その輸送に関しても現地とのやり取りに困難をきたし、コロナ禍の影響による途中の輸送費用の高騰やラオス側の外国人観光客激減による経済的破綻に起因する寄付金集めの頓挫などの理由で、タイ・ラオス間の国境で荷物が倉庫に長く留め置かれるという状況に追い込まれました。

昨年度末にSNSで広く協力呼びかけをさせて頂き、輸送費用についてたくさんの方の応援を頂き、何とか現地に古着が届けられる目途が立ちました。しかし、今回の顛末から、コロナ禍の中で世界の情勢が大きく変わっていることを私たちもきちんと認識した上で動く必要があることを強く思い知らされました。

もう一つコロナ禍の影響が大きかったのが、JICA(国際協力事業団)からの委託を受けて進めている草の根技術協力事業です。ミクロネシアの離島に暮らす女性たちに対して、太陽光発電で生まれる電気を活用したミシン、ソーラーミシンを使って伝統的な民族衣装を縫って販売する事業。それを、ザ・ピープルとしては2019年度から進めています。しかし、この事業も完全にストップ。日本から技術指導に現地に赴くことが出来ないままに、当初の事業計画期間を過ぎてしまいました。そこで、事業期間を2022年3月まで延長。ミクロネシア国内の現地業務補助員であるケニー大村氏が、リモートで技術を学んだうえで



▲コロナ禍の中で大量に集まる衣類の山

the people (NPO法人ザ・ピープル)

令和3年(2021年)4月号

発行:特定非営利活動法人 ザ・ピープル

代表者:吉田 恵美子

所在地:〒971-8168 福島県いわき市小名浜君ヶ塚町13-6

TEL:0246-52-2511 FAX:0246-92-4298

URL:<http://npo-thepeople.com/>

E-mail:[the-people@email.plala.or.jp](mailto:the-people@email.plala.or.jp)

[onahama.volunteer@gmail.com](mailto:onahama.volunteer@gmail.com)



現地の女性団体のネットワーク組織CWCの応援を得ながら事業を進め、日本からの渡航許可が下りるまでの期間を凌ぐことになりました。

更に、地球環境基金の助成を受けて進めていた「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」の取り組みを通じたネパールの女性たちとの交流事業に関しても、コロナ禍の中で

ストップ状態が続いています。東日本国際大学の留学生を介して昨年度中にネパールに提供することになっていた綿織り機やチャルカといった道具については、国際郵便がコロナ禍の中でストップしたことから、送ることもできない状態が長く続きました。ようやく別ルートを見つけ、輸送できたのが1月のことでした。しかし、その搬送先はカトマンズまで。予定していた支援先のチトワンには、現地で協力してくれるカトマンズ在住の日本人、渡辺陽菜さんの手を借りて運ぶしかない状況で、全てが今年度へと繰り越しになっています。

コロナ禍は、私たちの生活や活動に様々な影響をもたらしています。しかし、そのことを悲しんでいても状況の改善にはつながりません。現在与えられている環境の中で、私たちはこれからも方策を探りながら前に進んでいきたいと考えています。今年度も引き続き私たちの活動へのお力添えをよろしくお願い致します。

## ふくしまオーガニックコットンプロジェクトの自立化に向けて

ザ・ピープルが震災後の農業再生などを目的として進めてきた「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」では、首都圏をはじめとして地域外からおいで下さる沢山の方々の手を借りながら有機農業でのコットン栽培を進めてきました。その地域外からの来訪者がほぼゼロの状態に陥ってしまった昨年度、いわき市を介して復興庁「心の復興」事業として助成を頂きながら、プロジェクトでは自立化を目指して様々な検討を重ねてきました。

そして、この度その成果として、プロジェクトの一般社団法人化を行うことになりました。

市民活動的にコットン栽培を進めるザ・ピープルも、各地で実際に栽培を手掛ける農家や団体も、コットンの繊維製品化に取り組む株式会社KITEN も、様々な主体が横並びにそれぞれの意見を出し合いながらプロジェクトを更に前に進めるための組織づくりです。是非、応援のほどよろしくお願い致します。



▲ミクロネシアとリモートでつながる

